

Matsuyama Red Cross Hospital

地域医療連携室報

2015.6

No. **68**

基本理念

人道、博愛、奉仕の赤十字精神に基づき、医療を通じて、地域社会に貢献します。

基本方針

- 1 人間としての尊厳を守り、良質で温もりのある医療を提供します。
- 2 安全と安心の医療を提供し、信頼される病院を目指します。
- 3 地域の医療機関と連携を密にし、質の高い急性期医療・専門医療を実践します。
- 4 災害救護活動ならびに医療社会奉仕に努め、赤十字活動を推進します。
- 5 自己研鑽に努め、次代を担う医療人を育成します。
- 6 一人ひとりが生き生きとし、働きがいのある病院を目指します。

新任副院長紹介

副院長 横山 幹文



平成27年4月1日付で松山赤十字病院副院長を拝命致しました。私は福岡県の出身で昭和57年熊本大学を卒業後、九州大学医学部産科婦人科学教室から産婦人科医の道に入りました。平成5年4月から2年間及び平成9年4月から現在まで、合計20年間を松山赤十字病院に勤務させて頂きました。この間、桑島名誉院長、白石名誉院長、淵上名誉院長、横田院長の下で、ひたすら産婦人科領域の成育医療と婦人科腹腔鏡手術を展開すべく、診療を続けて参りました。平成16年7月の成育医療センター設立から10年が経過し、妊娠期胎児から思春期まで子供達とそのご家族をサポートしていただける体制ができるようになってきました。成育医療センターでは『関係性・継続性・重層性』を掲げ、子供達を守るべく多くの方策を取っています。また平成18年3月から地域周産期母子医療センターに認定され、地域の周産期医療を担うべく、周産期ホットラインを開設し連携産婦人科の先生方からより迅速な母体搬送をお受けすべく尽力してきました。さらに婦人科腹腔鏡手術では当初年間50例の腹腔鏡手術症例から開始しましたが、連携医療機関の皆様より多くの患者さんをご紹介頂き、現在350例を超える腹腔鏡手術を行い、より低侵襲な手術を提供することが可能になり、最近では重症骨盤深部子宮内膜症や早期体癌に対するより難易度の高い腹腔鏡手術を行えるようになってきました。医師会関連では、愛媛県産婦人科医会常任理事、松山市要保護児童対策地域協議会、愛媛県社会保険診療報酬審査委員を担当させて頂いております。

さて、医療を取り巻く状況は少子高齢化の人口構成の急激な変化により、目まぐるしく変化して

います。医療費抑制のため、国はなり振り構わず様々な矢を放ってきています。平成26年から病床機能報告制度が開始され、さらに今年度から厚労省の地域医療構想策定ガイドラインにより、病床再編・ネットワーク化が加速されることと思います。この荒波を乗り切るために、連携施設の皆様のご協力を受けながら、当院でもさらなる医療機能の分化、医療連携を推進していかなければなりません。さらに公的病院の機能の一つとして、小児、周産期、精神などの特殊部門の医療の提供が挙げられています。高齢化に対応する医療連携と同時に、少子化に対応する医療福祉行政との連携もより深化が必要と考えられます。

4月から院内では広報委員会、診療情報管理委員会など10の委員会委員長に任命されています。広報委員会ではITの進化に伴い、院外への情報の発信と共有がさらに必要かつ重要な課題であると認識しています。また診療情報管理委員会では従来の電子カルテ記載の標準化に加え、臨床指標 clinical indicator 検討部会を立ち上げ、多くの先生方や患者さんへ診療の質に関する情報を提供したいと考えています。新病院建築に関しては、すでに4月から新駐車場が稼働し始め、いよいよ10月から第1期工事が本格化する予定です。新病院運営委員会では医療情報部会、薬剤部会を担当します。このように内外ともに変動の大きな時期での副院長就任は大きな重圧ではありますが、皆様のご指導とご協力を頂きながら、最善を尽くしていきたいと考えています。よろしく申し上げます。

略歴：

昭和57年3月 熊本大学医学部卒業
昭和57年4月 九州大学医学部
婦人科学産科学教室入局
昭和63年3月
九州大学医学部臨床大学院医学博士課程卒業
(九州大学生体防御医学研究所・免疫学部門)
平成元年9月－平成2年8月
九州大学医学部附属病院産婦人科医員
平成2年9月－平成4年3月
日本学術振興会 特別研究員
平成4年4月－平成5年3月
九州大学医学部附属病院産婦人科助手

平成5年4月－平成7年3月
松山赤十字病院産婦人科副部長
平成9年4月－平成15年8月
松山赤十字病院第二産婦人科部長
平成15年9月－現在
松山赤十字病院第一産婦人科部長
資格：
日本産科婦人科学会専門医／代議員
母体保護法指定医
日本産科婦人科内視鏡学会
技術認定医／技術認定審査委員
日本内視鏡外科学会技術認定医
愛媛大学臨床教授
香川大学臨床教授

地域医療連携室 副室長紹介

第一内科部長 藤崎 智明



平成27年4月1日付で副室長の任を受けましたので、あらためて、関係各医療機関の皆様にご挨拶申し上げます。皆様のご理解と温かいご協力の下、地域医療連携室を柱とした当院の地域医療連携は、既に全国的にも高く評価されていますが、室長の横田院長が今年度のBSCに「地域医療連携の進化」を掲げられました。これは最近盛んに議論されている「医療・介護の2025年問題」を念頭に、松山2次医療圏にふさわしいバランスのとれた医療機能の分化・連携を適切に更に推進することを目的にしています。ご紹介に対する受入の円滑化を図るため、本年度から従来の内科(総合内科)と内科系救急を救急・総合診療部として内科系レジデント主体の運用に変更しました。総合内科は当面、内科指導医も補助的に担当しますので、必要な場合は従来どおり指導医へご紹介下さい。皆様と共に今後の地域医療を担う若い力を育てながら、同時にそれを最大限に活用する、いわゆるwin-winのシステムを作り、医療機関間のみならず世代間のシームレスな連携を構築したいと考

えています。連携の質の向上と効率化を目的に電子カルテの参照システムについても検討を行っています。システムの移行期には問題が生じるのは普通で、既に様々な問題点が浮き彫りになっていますが、院内外の皆様のご理解・ご協力を得て根気よく解決し、2025年には最良の地域医療連携が完成するように努力する所存です。また、当院は新病院開院を控え、自院の病床機能に関する検討を始めていますが、当院の基本理念である「地域医療への貢献」を推し進めるためには、病床機能を地域全体で検討し、最適化することが望まれます。そのためには、皆様方のご協力の下、病床機能や地域住民のニーズに関する情報共有と課題検討を進めることが不可欠です。今後もアンケートや懇談会などを通して、皆様のご意見を頂戴しますが、お気づきの点がございましたら、その都度、遠慮なくお知らせ頂ければ幸いです。地域医療を守り・育てるため、皆様のお力添えをお願い申し上げます。

新任部長紹介

第二循環器内科部長 盛重 邦雄



この度、第二循環器内科部長として、平成27年4月1日より着任致しました。これまでは、動脈硬化に起因する心血管病を中心に、基礎研究及びカテーテルインターベンションを含めた循環器内科診療全般に従事して参りましたが、最近是不整脈に対するデバイス治療やカテーテルアブレーションにも多く携わるようになってきました。当院においても、基本的には循環器全般を広く診療させて頂く予定ですが、心血管病変や不整脈疾患に対して、より低侵襲な治療法としてのカテーテル治療領域をより一層充実させて行くことが必要であると認識しております。その一方、循環器疾患では、長期に渡って検査及び治療が必要な場合が多く、その都度出来るだけ低侵襲な手法を選択するよう心掛けて来ました。循環器領域の画像診断は近年飛躍的に進歩しています。心臓CT等、各種画像診断を駆使することで、侵襲的なカテー

テル検査を回避出来るケースも増えてきました。患者さん個々の状態に応じた適切な検査・治療法の選択が、より安全な医療につながると考えており、当院の医療資源を最大限活用し、地域の先生方や患者さんのニーズに応えていけるよう努力して参る所存です。当院では、地域連携を重視した活動を継続しておりますが、当科においても、これまで以上に地域の先生方との連携が重要になってくると思われれます。特に動脈硬化を主たる原因とする心血管病の予後改善には、集中的加療が行われた後の慢性期管理が非常に重要です。安定期の患者さんをご紹介させて頂くケースが今後も増加することが予想されますが、これまで以上に密な連携をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

第三整形外科部長 梶原 了治



平成27年4月1日付けで第三整形外科部長を拝命することになりました。梶原了治と申します。平成4年の秋、愛媛大学在学中に若気の至りで乗用車の自損事故をおこし、ハンドルで前胸部を強打して当院整形外科を受診。レントゲン撮影後「折れてるかどうかはレントゲンではわからないけど心配ないよ～」とそっけないコメントと鎮痛剤を処方して頂いて以来のご縁で平成23年4月から整形外科に勤務させて頂いております。

さて、当院の整形外科はご存じのように各分野において専門に分かれており、私は山本進前診療部長が長年にわたって従事されていた手・肘関節外科を引き継ぐ形で担当させて頂いております。

手の外科という分野は扱う疾患や手術の種類が極めて多く、また形成外科とオーバーラップする唯一の専門分野で、独自の専門医制度があります。一方で手術単価が脊椎や大関節外科と比較して極めて安いので整形外科の100円ショップと揶揄さ

れることもあります。

診療状況につきましては平成23年度に190例であった上肢外科の執刀件数が平成26年度には420例となりました。これもひとえに地域連携医療機関の先生方からのご紹介の賜です。現在水曜日と金曜日が外来日ですが外傷例などお急ぎの症例などは直接ご一報頂ければできるだけ早期に対応致します。

まだまだ知らないこと、できないことが多く、患者さんや紹介医の先生方の期待に添えない結果となることが多々ありますが、1人でも多くの患者さんに喜んでもらえるようにこれからも一層の精進を積み、ダイソーに負けないお値段以上の良質100円ショップを目指していきたいと思っておりますので今後とも宜しくお願い致します。



小児救急の特徴として、①感染症が多い②夜間休日問わず発生する③保護者の不安が受診動機になることも多い④本人の訴えがないことも多く、診断が困難なため専門医への診察希望が強い⑤比較的軽症の患者が多い一方急変しやすいことなどが挙げられます。

松山市の小児救急は休日夜間含め、比較的整備が進んでいます。疾病については、松山市急患医療センターや医師会休日診療所が1次医療を担い、2次医療については松山市民病院、県立中央病院、当院の小児救急支援病院が当番制で対応しています。また、外傷は輪番病院が1～2次医療を担い、必要時には前記の3病院が対応しています。3次医療は原則的に疾病外傷とも県立中央病院または愛媛大学附属病院に対応して頂いています(図1)。

前述の通り軽症患者が多いため急患センターの役割は大きく、地域小児科医の協力体制のもと元旦以外毎日、21時から翌朝8時まで診療しています。幼少人口の減少にも関わらず、ここ10年の受診件数は年間約12,000件で横ばいです。年齢は2歳までが約半数を占めていますが、近年年長児の受診比率が増加傾向にあります。

急患センターから小児救急支援病院への紹介数は年々増加傾向で年間300人を超えています。当院への紹介数も増加しており、年間200人弱が入院しています。大部分が呼吸器消化器等の感染症ですが気管支喘息やけいれん性疾患も比較的多く見られます(図2)。以前はHibや肺炎球菌による髄膜炎等の侵襲性感染症も見られていましたが、ワクチン開始後2011年以降は見られていません。

3次医療に関しては県立中央病院救命救急センターのデータがあります。昨年1年間で小児は66例(全体の約10%)が入院し、約3分の2が外傷や熱傷です。内科疾患では原因不明の心停止、呼吸障害、意識障害が多数を占めています。

今後の中予における小児救急の課題をあげます。重要な役割を果たしている急患センターも開業小児科医の減少、高齢化等から担い手が減少し、さらに勤務医の負担が増す悪循環から存亡の危機にあります。現在も「こどもの救急ガイドブック」(図3)や#8000(電話相談)等を利用した患者教育、受診抑制を目指していますが十分周知できていないのが現状です。もう一つはPICUを中心とした小児高度救

急医療の整備です。日本は世界一の新生児医療を誇る一方、乳幼児の死亡率は高くハード、ソフトとも整備が遅れており、救える命が失われている現状があります。

いずれも現場の医師の努力では対応しきれなくなっており、国の政策として小児救急の整備を進めていく必要があると思われます。

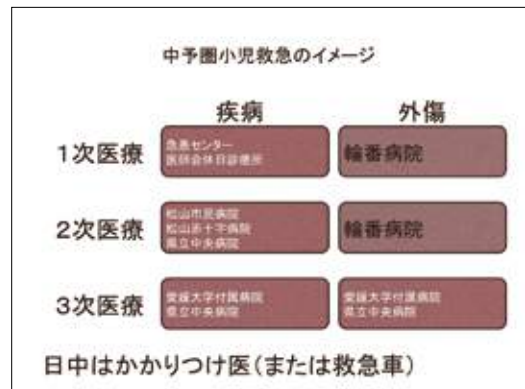


図1



図2



図3

平成26年度 松山赤十字病院・病診連携に関する

アンケート調査結果について



事務副部長（地域医療連携室副室長） 松原 隆司

(%)	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満
1. 医師満足度	77.0	17.2	4.6	1.1	0.0
2. 患者満足度	65.5	26.4	5.7	1.1	0.0
3. 連携室に対する満足度	70.1	19.5	9.2	1.1	0.0

平素は、当院連携室の事業運営にご支援、ご協力をいただきまして、厚く御礼申し上げます。

さて、今年2月に当院の病診連携に関するアンケート調査をお願いし、87施設の先生方よりご回答をいただきましたのでご報告いたします。

1. 医師満足度

「満足」が前年度比で3.8ポイント減となり、「やや不満」が0.4ポイント増となりました。

2. 患者満足度

「満足」が前年度比で2.7ポイント減となり、「やや不満」が0.4ポイント増となりました。

3. 連携室に対する満足度

「満足」が前年度比で8.4ポイント減となり、「やや不満」が1.1ポイント減となりました。

今回の調査では、すべての項目で「満足」の割合が前年度に比べて減少するという残念な結果となりました。また、「やや不満」の評価も増加しております。

昨年に続いて予約票の返信が遅いとのこと指摘については、主治医への確認のため遅くなる場合を含め、20分以内に返信するように再度徹底いたします。

4. 医療連携に関するご意見・ご要望

① WebLi(県医師会)は現在使用可ですか。

回答……院内で運用を検討しております。

②・紹介状の返事が来ず、患者本人から病状を聞くことがあり、大変困ります。

・経過や転帰に関する連絡が無い。

・紹介後、貴院から他院に転院された際、何の連絡も来ない時がある。連絡しづらい事情があると思うが、連絡はして欲しい。

回答……地域医療連携室から各科診療部長へ返信の徹底を再度周知いたします。

③ 第4木曜日のイブニングセミナーは、他の会があるためなかなか参加できません。日時の変更は可能でしょうか。

回答……かねてからご要望のありました開催日につきましては、今年度から、上半期は第4木曜日、下半期は第3木曜日(12月は第2木曜日)の開催といたしました。また、歯科口腔外科に関するセミナーも、来年2月に開催予定といたしました。

④ 紹介状による患者受診時間を適時割り振り出来るように考えてほしい。

回答……診療科によっては医師の確認を要するため、スムーズにご予約をお取りできない場合がございます。ご理解の程お願いいたします。

ご意見・ご要望を真摯に受け止め、今後の地域医療連携室及び院内の業務内容を検討し、できる限り皆様のニーズに対応できるように取り組んでいきたいと思っております。

最後になりましたが、大変お忙しい中、アンケートにご協力いただき心より感謝いたします。院内からは気付かない点等ご指導を賜り、より良い病診連携を築きあげるための貴重な反省資料となりました。

今後とも、ご不満の点、建設的なご意見等連携室までお知らせいただければ幸いです。当院地域医療連携室をよろしく願います。

第
12
回

地域医療連携フォーラム開催のお知らせ

- 日 時：2015年8月2日(日) 13:00～15:30
- 会 場：ひめぎんホール サブホール
- 主 催：松山赤十字病院 ■ その他：入場無料・事前申込不要

《テーマ》『知っておきたい薬の話』～病院薬局と地域薬局との連携～

1部 院外処方に移行して ～かかりつけ薬局をもちましょう～

1. 「院外処方のメリット 一薬歴管理の重要性」
講 師 松山赤十字病院 薬剤部長 仙波 昌三 先生
2. 「お薬手帳の上手な使い方」
愛媛県薬剤師会 常務理事 田中 智美 先生

2部 新薬最前線 ～薬をよく知って正しく使おう～

1. 「血液サラサラの薬について」
講 師 松山赤十字病院 循環器内科部長 久保 俊彦 先生
2. 「糖尿病の新薬」
内 科 部 長 近藤しおり 先生
3. 「進歩するC型肝炎ウイルス治療薬」
肝臓・胆のう・膵臓内科部長(副院長) 上甲 康二 先生

◆◆◆ イブニングセミナー開催のお知らせ ◆◆◆

- 第3回 6月25日 C型肝炎の最新治療 副院長(肝臓・胆のう・膵臓内科部長) 上甲 康二
- 第4回 7月23日 末梢動脈疾患(PAD)に対する血管内治療 血管外科部長 山岡 輝年
- 第5回 8月27日 肺がんの最新治療 呼吸器内科部長 兼松 貴則
呼吸器外科部長 横山 秀樹

松山赤十字病院登録医制度について

平成27年5月31日現在、当院の登録施設は359施設、登録医は527名です。
今後も随時、受付けておりますので当院「地域医療連携室」までお問い合わせください。TEL(089)926-9516

FAXによる受診予約について

地域医療連携室では、従来より地域のかかりつけ医の先生方からFAXによる紹介患者さんの受診予約を承っております。これにより紹介患者さんを来院日に受診される診療科へ直接ご案内することが可能になります。
是非、FAXによる受診予約をご利用いただきますようお願い申し上げます。

FAX (089)926-9547(24時間受付)
TEL (089)926-9527(平日8:30～17:10)

※17:10以降にいただいたFAXにつきましては、翌日のお返事とさせていただきます。

- 発行責任者 / 院長(地域医療連携室長) 横田英介
- 編 集 / 松山赤十字病院・地域医療連携室 〒790-8524 松山市文京町1番地
TEL 089-926-9527 FAX 089-926-9547 <http://www.matsuyama.jrc.or.jp/>